

八学大が助産師養成

県南初 23年度別科新設

八戸学院大学（水野眞佐夫学長）は2023年4月、助産師を養成する1年制の「別科助産専攻」を新設する。助産師養成学校は県内4校目、県南では初めて。本県では慢性的な助産師不足が続いており、同大は本県の周産期医療や地域母子保健の向上に貢献できる人材の育成を目指す。

同大は09年4月、系列の八戸学院短大に3年制看護学科を新設。16年4月、大いに4年制看護学科を設置し、短大看護学科の募集を停止した。同大によると、短大看護学科開設当時から助産師を志望する学生がいたが、多くは若手県や仙台

周産期医療の充実期待 人材定着が課題

県内関係者ら

年度	総数(人)	人口10万人当り
2008	299	21.5
10	297	21.6
12	288	21.3
14	318	24.1
16	326	25.2
18	337	26.7
20	336	27.1

県南初の助産師養成学校が来年度、八戸学院大学に開設されることについて県内の医療関係者は「八戸、上十三地域だけでなく、県全体の周産期医療の充実につながる」と期待を寄せる。本県の人口10万人当たりの助産師数は微増傾向にあるが、ハイリスク妊産婦や不妊治療、周産期のメンタルケアへの対応など高い専門性が求められる。現場の負担感は大い。このため「県内で育てた人材を県内に定着させる取り組みが必要」との声もある。

県医療業務課によると、本県の助産師数は2020年12月末現在336人。人口10万人当たりでは27・1人で、2年前調査の26・7人に比べると微増しているが、全国平均の30・1人を下回り、全国37位となっている。地域別でみると、津軽、八戸地域の人口10万人当たりの助産師数は全国平均を上回っているものの、上十三、西北五地域は半数以下と深刻な状況にある。

21年度分娩数が1041件と東北上位で、八戸地域全体の分娩数の6割を占める八戸市立市民病院。助産師免許を持つ職員は65人で、このうち実働する助産師は49人。16人は管理職または経験を積むため別部署に勤務している。同院は県内で唯一、助産師が中心となって院内で正常分娩に対応する「院内助産システム」を導入している。近年は高齢出産や病気になる妊婦に加え、家庭事情やメンタルヘルスといった心理社会的リスクが高い妊婦が増加しており、今明

秀院長は「ここ5年くらいで助産師の業務が拡大している。現場ではもっと人数が必要だが、養成学校や院、八戸市保健所、同市の「きこキッズ助産院」の協力を得る。カリキュラムには、女性のライフサイクル各期における健康支援、生殖補助医療に関する内容、若年者に妊娠前から健康管理支援を行う「プレコンセプションケア」など特色ある科目を盛り込んだ。同大看護学科長で別科助産専攻プロジェクトリーダーの高橋雪子教授は「命の尊厳を守り、対象者が健康で幸せになるよう専門家として支援し続けることができる助産師を育成したい」と語った。

入学定員が少なく、狭き門となっている」と課題を語る。県看護協会の証谷京子会長は「県南地域の看護学生や看護士にとって、地元で助産について学べるのは大きなメリットを歓迎する。一方で、本県で学ぶ看護・医療系学生の県外就職率が高い現状を指摘し「医療職全体の人材が不足している中、県民の健やかな生活を支える看護職の役割が拡大している。人材を育成し、本県に定着させる施策や支援がもっと必要ではないか」と語った。

（千葉真由美）

医療圏	総数(人)	人口10万人当り	全国平均
軽井沢	100	36.3	120%
八戸	104	33.5	111%
青森	76	25.7	85%
西北	18	14.9	49%
北	23	13.7	45%
五	15	22.0	73%
全	336	27.1	90%

本県の助産師就業者数

本県の助産師数の推移

本県の助産師数の推移

本県の助産師数の推移